

＜先週の説教から＞

『ルカ 58 — 笛を吹いても踊らない人よ』

武田真治牧師

イザヤ書 5：11～14 ルカ福音書 7：29～35

普段、私共が何げなく使っている言葉の中に、もともとは聖書の言葉から来ているという言葉があります。『目からうろこ』や『豚に真珠』などです。今日の聖書の箇所からもそのような言葉が生まれました。それが『笛吹けど踊らず』です。この言葉は中国の故事成語や日本のことわざ等から出て来たものではないのです。今日は、この言葉がどのような状況で語られたのでしょうか？

その状況は30節で「しかし、ファリサイ派の人々や律法の専門家たちは、彼（＝ヨハネ）から洗礼を受けないで、自分に対する神の御心を拒んだ」とあり、ここでの「神のみ心」とは“すべての人を救いへと招きたい”という願いですが、それを拒む人たちが実際には居ると。この現実を踏まえつつ、イエス様が語られた言葉が31節の「では、今の時代の人たちは何にたとえたらよいか。彼らは何に似ているか。広場に座って、こう言っている子供たちに似ている。『笛を吹いたのに、踊ってくれなかった。葬式の歌をうたったのに、泣いてくれなかった。』」と。これは単にファリサイ派や律法の専門家だけでなく、彼らに代表される「この世」の人々はおおむね『笛吹けど踊らず』なのだとされているのです。

このような状況は今でもまさに同じではないでしょうか？私共がいかにも大きな声で、音色を変えて『笛を吹いた』としても、世の中の多くの人々は『踊ってくれない』現実があります。考えさせられるのは、イエス様の時代でもそうだったのだということを改めて思われます。今の世の中はますます“冷たく”なっているのではないのでしょうか。そのようになってしまう理由、原因は何なのでしょう？

この後にイエス様は言葉を続けて「洗礼者ヨハネが来て、パンも食べずにぶどう酒も飲まないでいると、あなたがたは『あれは悪霊に取りつかれている』と言い、人の子（＝イエス様）が来て、飲み食いすると『見ろ、大食漢で大酒飲みだ。』

徴税人や罪人の仲間だ』と言う」と言われています。このように、あれこれ批判ばかりして、結局は動きたくない、従いたくないからではないかと。その通りだと思わされます。ただ一方で、私たちもこのような状態に陥らないようにと自ら考えて行かなければならないと思わされます。

今日の聖書の箇所から、私が示された言葉は『ローマの信徒への手紙』12章15節の「喜び人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」です。私たちのあるべき生き方がこの言葉によく示されているのではないかと思います。それは今日のイエス様の言葉とも密接につながっているのではないのでしょうか。私たちひとり一人が置かれている状況の中で、各々の在り方で“共に喜び、共に泣く”者でありたい！

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 11月19日（水）20：00
II. 11月20日（木）10：30

聖書研究： ヨブ記—③

祈祷主題： 謝恩日を覚えて

担当者： （水）SM （木）AH

祈りに覚える人： IAさん IAさん

*ハンナの会 11月18日（火）10：30～

【教勢報告】

主日礼拝 男16 女39 計55

祈祷会 I. 男4 女2 計6 II. 男2 女8 計10

日曜学校 幼稚科2 小中科1 計3

【次週主日礼拝】 11月 23日（日）

聖書： ホセア書 6：4～6

ルカによる福音書 7：39～50

説教： 「ルカ 60 - 愛には大きさがある？」

武田真治牧師

讃美歌： 361(1)、32、387、113、433、

【次週当番表】 90(1)

司式：IK長老 奏楽：SY 礼拝：KY長老

献金：MY MA 受付：KH ST

会堂準備：OK KH KA TN

NE

看板：NY 週報：IT お花：IY

【次週集会予定】

礼拝前： ・聖書輪読会 ・求道者会

礼拝後： ・牧師と語る会 ・お茶の会 ・聖歌隊練習

・牧会/伝道/礼拝/社会教育 各委員会

66 - 46

週報

2025年度 教会標語

「主につながり、根を張り、枝をひろげて」

2025年 11月 16日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549